

# 第2次三条市食育推進計画 平成25年度 実施状況 一覧表

平成25年度実施状況・評価・反省

基本的施策1 日本食を基本とした食生活の実践

【乳幼児期】

事業名	担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
乳幼児健診における栄養指導	健康づくり課	<b>対象:</b> 乳幼児健診参加者 <b>内容:</b> (1)集団栄養指導(3か月児・1.6歳児・3歳児健診) (2)個別栄養指導(10か月児健康相談会、1.6歳児・3歳児健診、2歳児・2.6歳児歯科健診) <b>実施日:</b> 通年(各健診月1回実施) <b>目標:</b> 必要な方が栄養相談を受けられるよう体制を整える。	<b>(1) 集団栄養指導人数(各12回実施)</b> 3か月児健診 延べ720人(参加率98.8%) 1.6歳児健診 延べ771人(参加率98.5%) 3歳児健診 延べ766人(参加率98.1%) <b>(2) 個別栄養指導人数</b> 10か月児健康相談会 延べ703人(参加率96.4%) 1.6歳児健診 延べ144人(参加率18.4%) 2歳児歯科健診 延べ101人(参加率13.1%) 2.6歳児歯科健診 延べ83人(参加率10.9%) 3歳児健診 延べ54人(参加率6.9%)	○	各健診の相談者数に合わせて栄養士を配置し、必要な方が相談を受けられる体制をつくることができた。参加率の高い集団指導の内容について、より効果的な啓発の機会となるよう見直していきたい。
すまいるランドでの栄養相談 【ばくばく栄養相談】	健康づくり課	<b>対象:</b> すまいるランド利用者 <b>内容:</b> 個別栄養相談 <b>実施日:</b> 通年(月1回)	12回実施、延べ163人、月平均13.6人	○	離乳期に食の悩みを持つ保育者は多く、この相談会は栄養士に直接相談できる機会として、毎回利用者がとても多い。込み合うことも多い中、参加者がより相談しやすい環境づくりを、施設と連携し目指したい。
子育て支援センターでの食育講話	健康づくり課	<b>対象:</b> 子育て支援センター利用者 <b>内容:</b> 調理実習及び食育講話 <b>実施日:</b> 随時	6回実施、延べ82人	○	全施設で年1回以上の実施があり、食に関する講座が支援センターの事業として定着しつつある。
離乳食相談会	健康づくり課	(1)離乳食チャレンジ教室 <b>対象:</b> 生後5か月児と保護者 <b>内容:</b> 管理栄養士講話及び調理実習、試食 <b>実施期間:</b> 通年(月1回) (2)離乳食ステップアップ教室 <b>対象:</b> 生後7か月児と保護者 <b>内容:</b> 管理栄養士講話及び離乳食試食 <b>実施期間:</b> 通年(月1回) ※目 標:「不安解消された」と答える参加者が80%以上	<b>(1)離乳食チャレンジ教室</b> 12回実施、延べ214人参加、参加率29.4% 「不安が解消された」と答える参加者 93.6% <b>(2)離乳食ステップアップ教室</b> 12回実施、延べ197人参加、参加率27.5% 「不安が解消された」と答える参加者 99.0%	○	「不安が解消された」と答える参加者が、各教室とも90%以上であり、離乳食を安心して進めるための支援ができていると考える。参加率も昨年に比べやや増加している。健診時の周知を工夫し、さらなる参加率アップを目指す。

平成25年度実施状況・評価・反省

基本的施策1 日本食を基本とした食生活の実践

【乳幼児期】

事業名	担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
保育所等巡回指導	健康づくり課	対象：保育所児童3～5歳児 内容：食品カード等を利用した食指導 実施期間：通年 目標：1施設につき年6回程度実施	指導回数 169回（平均年6回） 指導人数 3,695人	○	3歳児は年間1回の指導のため、事前に児童の理解度や様子を担任に確認し、効果的な指導をする。
保育所等食育講座	健康づくり課	対象：保育所5歳児と保護者 内容：児童が栽培した野菜で親子クッキング、保護者への食育講話、給食会食 実施期間：通年 目標：食育講座に参加して良かったと答える参加者が96%以上	実施回数 30回（28施設） 参加状況 5歳児 601人、保護者 586人 「参加して良かった」と答える参加者 97.5%	○	家庭での食育を推進する機会とするため、引き続き施設から保護者への参加を促す。
保護者食育講話	健康づくり課	対象：保育所3,4歳児保護者 内容：給食試食会等を活用した保護者への食育講話 実施期間：通年 目標：保育所全体の40%以上で実施（H24は48.3%）	実施回数 30回 実施率 50% 参加者数 延べ928人	○	実施率が上がった理由として、祖父母を対象とした食育講話を実施した施設があるため。今後も引き続き、望ましい食生活の定着を図る機会として継続する。
保育所等調理体験保育	健康づくり課	対象：保育所児童 内容：児童の調理を通じた保育の実施 実施期間：通年 目標：保育所の平均回数が増えることを目標とする。平均回数（実施回数/施設数割合）	実施回数 延べ124回（全28施設で実施） 保育所平均実施回数 H24年度：3.8回 H25年度：4.4回	○	今後も日常保育の中で、調理体験等の食育活動を増やしていくよう施設に働きかける。
キッズ健康（肥満予防）教室	健康づくり課	対象：肥満傾向児の保護者及び保育士 内容：医師講話、栄養士講話 実施日：10月頃 目標：参加して良かったと答える参加者が80%以上	実施日 11/6 参加者 保護者18人、保育士31人 内容 医師講話「間違っていないか？肥満予防 歯医者がすすめる簡単健康法」 講師：ひまわり歯科医院 院長 鈴木公子氏 管理栄養士・保健師講話「三条市幼児肥満とう歯の現状について」 「参加して良かった」と答える参加者 100%	○	「三条市幼児肥満とう歯の現状について」現状がよくわかったと答える人が多かった。医師講話は非常に満足度が高かった。また、例年、保護者の参加が少ないので、次年度は保育所及び学校職員等を対象とした研修会を開催する。
米飯給食の実施	健康づくり課	対象：保育所児童 内容：0～2歳児は完全給食、3～5歳児は副食給食を実施	毎日米飯給食の実施	○	ごはんが食べやすい副食を検討し、今後も米飯給食を実施する。

事業名	担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
指導者への食育研修会実施	健康づくり課	<b>対象：</b> 保育士 <b>内容：</b> (第1回)畑の苗植えの実技指導及び講話、(第2回)事例発表 他 <b>実施日：</b> (第1回)5/9、(第2回)1/30 <b>目標：</b> 参加して良かったと答える参加者が80%以上	(1)第1回 <b>実施日</b> 5/9 <b>参加者</b> 30人 <b>内容</b> 畑の苗植えの実技指導 他 (2)第2回 <b>実施日</b> 1/30 <b>参加者</b> 32人 <b>内容</b> クッキング実技指導、事例発表他 「参加して良かった」と答える参加者 82.8%	○	例年、畑の苗植えの実技指導は参加者に好評である。次年度は保育所及び学校職員研修会として実施する。



平成25年度実施状況・評価・反省

基本的施策1 日本食を基本とした食生活の実践

【学齢期】

事業名	担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
学校食育推進事業	健康づくり課	<p><b>対象：</b>主に小学5年生及び中学1年生</p> <p><b>内容：</b></p> <p>(1)身体状況の把握（血液検査及び身体測定）</p> <p>(2)管理栄養士等による個別指導（血液検査及び身体測定結果について）</p> <p>(3)食育講演会及び講話（専門家による講演会）</p> <p>(4)食育授業（栄養士による食に関する授業）</p> <p>(5)親子食育教室（小学6年生と保護者を対象とした食に関する実習と運動実習）</p> <p>(6)保育所交流会（保育所児童と小学生の交流）</p> <p>(7)保護者対象の食育講話</p> <p><b>実施期間：</b>通年</p> <p><b>目標：</b>中1の食育授業評価において「これから食生活を良くしていこうという意欲が持てた」が70%以上</p>	<p>(1)身体状況の把握 <b>実施者数：</b>小学5年生857人、中学1年生888人</p> <p>(2)管理栄養士等による個別指導 <b>指導者数：</b>小学5年生173人、保護者301人、 中学1年生309人、保護者348人</p> <p>(3)食育講演会及び講話 <b>参加者数：</b>小学5年生850人、保護者260人 中学1年生868人、保護者27人</p> <p>(4)食育授業 <b>参加者数：</b>小学5年生855人、中学1年生874人</p> <p>(5)親子食育教室 <b>参加者数：</b>小学6年生904人、保護者555人</p> <p>(6)保育所交流会 実施校17校、20施設 小学生440人、保育所児童488人</p> <p>(7)保護者対象の食育講話 実施校16校、保護者623人</p> <p><b>目標：</b>中1の食育授業評価において「これから食生活を良くしていこうという意欲が持てた」は88.3%</p>	○	<p>学校における血液検査をもとにした食育の取組は少しずつ定着している。目標値も達成することができた。しかし、中1ではほぼ半数が要指導・受診となっている。内訳をみると、小5の時点で「異常なし」だった者の割合が多く、小5の時に個別指導を受けている者は改善率が高い。今後、「異常なし」だった者に対しても、他人事とせず自分のこととして意識できるよう啓発を行っていく必要がある。</p> <p>【身体計測及び血液検査結果において要指導以上の者】</p> <p>計測：小5 12.7%、中1 13.8% 貧血：小5 26.2%、中1 37.5% 脂質：小5 10.2%、中1 9.0% 総合：小5 40.7%、中1 48.8%</p>

【青年期】

事業名	担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
高校生への食に関する啓発活動	健康づくり課	<p>(1)食育授業</p> <p><b>対象：</b>高校生3年生</p> <p><b>内容：</b>管理栄養士による食育授業の実施</p> <p><b>実施日：</b>9月頃</p> <p><b>目 標：</b>アンケート調査で「これからの食生活を良くしていこうと思う」の回答が65%以上</p> <p>(2)食育講座</p> <p><b>対象：</b>高校生3年生</p> <p><b>内容：</b>調理実習及び食育講話</p> <p><b>実施日：</b>12月</p>	<p>(1)食育授業</p> <p><b>参加者数：</b>県央工業高校3年生149人、1年生180人</p> <p><b>実施日：</b>3年生 9/17, 18, 19, 20, 26 1年生 9/25, 30, 10/1</p> <p>「これからの食生活を良くしていこうと思う」と答える生徒は66.4%</p> <p>(2)食育講座</p> <p><b>参加者数：</b>県央工業高校3年生179人</p> <p><b>実施日：</b>12/11、12、13、16、17</p>	○	<p>食育授業のアンケート調査では目標が達成された。さらに理解が深まるような内容に工夫する。北陸ガスと共催で調理実習を行うことができ、生徒たちからも大変好評だった。調理実習のメニューが洋風だったため、次年度からは和食を中心としたメニューとする。県央工業は引き続き平成26年度も実施予定。今後、栄養士会と協力し、市内の他の高校へも取組みを広げていく予定。</p>

平成25年度実施状況・評価・反省

基本的施策1 日本食を基本とした食生活の実践

【妊娠期】

事業名	担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
妊婦教室における栄養指導	健康づくり課	【パパママ学級 第一コース】 対象：5, 6か月の妊婦と夫 内容：講話「妊婦と家族の健康と食事」 実施日：4/13、6/22、8/24、10/12、12/7、2/22 目標：栄養の話について、「参考になった」参加者が85%以上	6回実施、89組参加 栄養の話について「参考になった」と答えた参加者は90.0%	○	妊婦及び夫に関心を持ってもらう良い機会であるが、食生活についての振り返りの時間が短い。この機会に食生活の振り返りがしっかりとできると良い。

【壮年・高齢期】

事業名	担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
健診結果説明会及び健康教室での栄養指導	健康づくり課	(1)健診結果説明会での栄養指導 対象：集団健診受診者 内容：個別栄養指導 実施期間：8～3月 (2)健康教室等での栄養指導 対象：市民 内容：市民公開講座、生活習慣病予防教室食事編での集団指導 実施期間：10～12月	(1)健診結果説明会での栄養指導 実施回数：全34回 指導人数：65歳未満 45人(参加率1.1%) 65歳以上 242人(参加率4.0%) (2)健康教室等における栄養指導 市民公開講座(全4回)・・・参加者延べ87人 生活習慣病予防教室食事編(全5回)・・・参加者延べ55人	○	健診結果説明会参加者全員が栄養相談を受けられるよう、待ち時間を活用し栄養相談を行った。次年度も継続して取り組む。
特定保健指導における栄養指導	健康づくり課	対象：集団健診を受けた40～70歳の市民 内容：特定保健指導及び集団栄養指導 実施期間：通年	初回面接実施者：454人 (保健師、看護師、管理栄養士での指導人数)	○	次年度も保健指導実施率を維持するよう現在の体制を維持する。
高齢者の食と暮らしの調査	健康づくり課	対象：三条小学校区在住の65～79歳 内容：調査票による訪問調査及び郵送調査 調査期間：平成25年6～7月	回収結果298人(回収率82.1%) 高齢者の孤食と生活満足度や食事の偏り等の状況を把握することができた。	○	高齢者の生活満足度を高めるため、孤食を解消できるような取組が必要である。
在宅高齢者給食サービス事業	高齢介護課	対象：70歳以上の一人暮らし、もしくは高齢者のみ世帯の方で、食の支援が必要と判定された方 内容：週1回夕食を配達し、併せて安否の確認を行う。 実施期間：通年(毎週木曜日) 目標：週1回当たりの平均利用者数が248人	4月時点での登録利用者は202人、新規登録者は44人で、延べ利用者は246人となった。利用をやめたり、利用者の都合で給食を休むこともあり、1回あたり176人の利用となったが、本来の目的は達成できたと考える。	○	利用をやめる人が、新規登録者を上まわり、登録利用者はやや減少となった。事業の周知を図ることにより、潜在的にサービスを必要としている高齢者や家族から利用してもらうよう今後も継続して実施していく。 課題としては、高齢化や認知症により、利用券の受け渡しが困難になるケースへの対応が挙げられる。

新規

事業名	担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
栄養・口腔講座	高齢介護課	<b>対象</b> ：さんちゃん健康サークル認定団体 <b>内容</b> ：食育講話、食生活指導 <b>実施期間</b> ：7月～3月末 <b>目標</b> ：13回実施（食生活分野について）	実施回数：17回（延べ参加人数229人）	○	目標値を上回る実績があり、食生活への関心の高さが伺えた。今後も引き続き事業を継続し、栄養改善と併せて、口腔や運動器の機能向上を図る総合的な介護予防の普及啓発を推進していく。

平成25年度実施状況・評価・反省

基本的施策1 日本食を基本とした食生活の実践

【全年代】

事業名	担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
関係組織や団体と連携した健全な食生活の普及	健康づくり課	【食生活改善推進委員協議会と連携した取組】 (1)親子で食育(11月予定) (2)メンズクッキング(11月予定) (3)減塩普及活動(6/22、10/5の健康ウォークにて実施)	(1)親子で食育(12/9)実施 参加組数 15組 (2)メンズクッキング 11/7・11/19実施 参加人数 延べ22人 (3)減塩普及活動(6/22) チラシ200枚配布 (10/5) チラシ80枚配布	○	広く周知するために早めにチラシ等を配布し、参加者の増員を図る。
公民館での健全な食生活実践に関する講座の実施	公民館	【嵐南公民館】 (1)ひまわり専科(3講) 対象:成人女性 7月「健康づくりのための食生活」 (2)家庭料理講座(全7回) 対象:成人 5月～12月	(1)ひまわり専科 実施回数 1回 参加人数 15人 10回シリーズの1講であるため、全体のアンケートは取ったが、個々には取っていない。 (2)家庭料理講座 実施回数 全7回 実人数23人 延べ人数130人 アンケート結果より「料理の基礎、料理方法など得ることができたか」得られた、とても得られた合わせて84.2%だった。	○	ひまわり専科は、何年も実施しているため参加者が少ないので、内容を変えて実施したい。家庭料理講座は、長年にわたり実施しているので、サークルへ移行する。
		【三条東公民館】 季節の家庭料理教室 対 象:主に東地区の成人 内 容:旬の食材を使った料理についての講義と調理実習 実施日:6～11月	5回実施、実人数16人参加、参加率87.5% アンケート結果より「とても良かった」が93.3%であった。	○	料理に慣れない男性には難しく感じられる部分があったので、講座によってはレベルを分けて開催するなど考慮する。
		【井栗公民館】 ちびっ子お菓子作り教室(全3回) 対 象:小学生 内 容:お菓子づくり 実施日:6月・9月・1月	実施回数 3回、参加者数 延べ29人。アンケート結果から、「とても楽しかった」62%、「楽しかった」27.5%で合わせて、89.5%であった。	○	テーマを絞った内容と材料を工夫していきたい。
		【本成寺公民館】 (1)季節の料理教室(全6回) 6～7、9～12月 (2)美味しんぼクラブ(全3回) 6月、12月、2月	(1)季節の料理教室 実施回数 6回 参加者数 延べ63人 (2)美味しんぼクラブ 実施回数 3回 参加者数 延べ46人	○	参加率・評価ともに良かったので、次年度も実施したいと考えている。

事業名	担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
公民館での健全な食生活実践に関する講座の実施	公民館	<p>【大崎公民館】</p> <p>(1)男の料理教室(全4回)×2 ①6月～7月②11月～1月</p> <p>(2)こどもエプロンクラブ 8月・3月</p> <p>(3)家庭料理教室 5月～12月 ①「匠の料理」5月～7月(全3回) ②「おこわ作り方」10月 ③「ウィンナー作り」11月 ④「手作りこんにやく」12月</p>	<p>(1)男の料理教室(全4回)×2 6～7月、11月～1月開催、参加人数17人、述べ64人、参加率94.1% アンケート結果より「参加満足度」が75%、「家庭でも作った事がある」が50%であった。</p> <p>(2)こどもエプロンクラブ 8月手打ちうどん、3月フルーツ大福、参加人数23人、述べ人数20人、参加率86.9% アンケート結果より「参加満足度」100%、「家庭でも作ってみようと思う」が85%であった。</p> <p>(3)家庭料理教室 ①匠の料理(全3回)5/19、6/16、7/28 参加人数12人、延べ31人、参加率86.1% アンケート結果より「参加満足度」「講師教え方」ともに88.9%であった。 ②おこわの作り方 10/19 参加人数15人、参加率100.0% アンケート結果より「技術・知識の習得」が93.3%であった。 ③ウィンナー作り 11/30 参加人数13人、参加率100.0% アンケート結果より「参加満足度」100.0% であった。 ④手作りこんにやく 12/23 参加人数15人、参加率100.0% アンケート結果より「参加満足度」は92.9%「作り方の習得」85.8%であった。</p>	○	<p>(1)男の料理教室 春に開催した際は、家庭でも作ったことがある人が過半数を大きく下回っていたが、秋の開催で改善することができた。また、アンケートでの意見により、次年度からは生徒の希望メニューを取り入れることとする。</p> <p>(2)こどもエプロンクラブ 参加満足度や家でも作ってみたいと思う割合が高く、料理の楽しさを知ってもらうことが出来た。</p> <p>(3)家庭料理教室 今回は「伝承料理」と「安心、安全な食べ物」を考えた内容を計画。 お金で何でも買えるこの時代に、「手作り」に興味がある人が多いことに安心した。</p>
		<p>【大島公民館】</p> <p>(1)春・夏の家庭料理教室(全4回) 5～8月</p> <p>(2)男性料理教室(全5回) 6～10月</p> <p>(3)秋・冬の家庭料理教室(全4回) 6～10月</p> <p>(4)きつず！楽しくクッキング(全3回) 12～2月</p> <p>(5)親子ふれあい広場 3/15</p>	<p>(1)春・夏の家庭料理教室(全4回) 参加人数12人、延べ42人</p> <p>(2)男の料理教室(全5回) 参加人数 8人、延べ37人</p> <p>(3)秋・冬の家庭料理教室(4回実施) 参加人数11人、延べ39人</p> <p>(4)きつず！楽しくクッキング 参加人数15人、延べ44人</p> <p>(5)親子ふれあい広場 参加人数10人、延べ10人</p>	○	<p>(1)、(3)毎回のメニューが、講師のセンスを取り入れた新しいもので参加者から好評を得ている。</p> <p>(2)参加者同士の交流が深まると同時に、調理することの楽しみも感じられる機会を提供できた。</p> <p>(4)、(5)子供、親子が触れ合いながら、楽しく食の大切さを学ぶ機会が提供できた。</p>

事業名	担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
公民館での健全な食生活実践に関する講座の実施	公民館	<b>【栄公民館】</b> (1)男の料理教室(全6回) 6~12月 (2)子ども料理教室(全3回) 12月~2月	(1)男の料理教室(6回実施) 参加人数 延べ42人 満足度ではアンケートではとても良かったが50%以上であった。 (2)子ども料理教室 (3回実施) 12~2月実施 参加人員 延べ51人 満足度ではアンケートではとても良かった・良かったが56%以上であった。	○	(1)男の料理教室 メニューの中に季節感のあるものを取り入れて献立を考える。 (2)子ども料理教室 包丁の持ち方などの基礎を学習する機会を提供する。
		<b>【下田公民館】</b> (1)女性セミナー 第7回 お正月のおもてなし料理 11/15 (2)子ども料理教室 第1回ピザ作り 7/26 第2回ケーキ作り 8/23 第3回クリスマスケーキ作り 12/21 (3)生活講座「今日から始める！男の料理」 11/29	(1)女性セミナー 参加人数18人 (2)子ども料理教室 第1回 参加人数20人 第2回 参加人数20人 第3回 参加人数16人 (3)生活講座 参加人数9人	○	(1)フライパンで作れるローストビーフなど、簡単にできる内容だったため参加者に好評だった。 (2)子どもたちが楽しみながら食の大切さを学ぶことができたので良かった。 (3)普段あまり包丁を持たない男性たちの料理作りのきっかけになった。アンケートも満足度が高かった。



平成25年度実施状況・評価・反省

基本的施策2 地域の農業や食文化を理解し、感謝の心を育む

【幼児期】

事業名	担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
生産者交流会の実施	健康づくり課	対象: 保育所児童 内容: 生産者講話及び会食 実施期間: 通年 目標: 10施設実施 (H24は未実施)	8施設実施	△	今年度から保育所が主体となって実施した。今後も実施施設が増加するよう促していきたい。
保育所野菜作りの体験	健康づくり課	対象: 保育所児童 内容: 児童が野菜栽培を体験する 実施期間: 通年 目標: 市内28施設で実施	市内全施設で実施	○	全施設で野菜作りが定着してきた。今後も取組みが継続するよう働きかけていきたい。

【学齢期】

事業名	担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
生産者交流会の実施	健康づくり課	対象: 小中学校児童生徒 内容: 生産者講話及び会食 実施期間: 通年 目標: 市内小中学校17校実施(H24は14校)	市内小中学校15校実施し、参加生産者48人、児童生徒数は1,288人	△	H24よりも実施校数が増加したが目標には届かなかった。実施時期を自由に設定できるよう、早めに計画・案内する。
小中学生の農業理解促進(学校教育田活用)	農林課	【学校教育田の実施】 対象: 市内 22小学校 内容: 協力農家と一緒に田植えから稲刈りまでの作業を体験し、農業や米に対する理解を深める。 実施期間: 5月～11月 目標: 農業や米に対する理解が深まった生徒が生徒が80%以上	(農業活性化プランから再掲)		
子どもが作る弁当の日	教育委員会	対象: 小5・小6・中1・中2・中3年の児童生徒 内容: 各学年が年3回程度実施する 目標: 各校の取組の評価(4段階評価)で、肯定的評価が90%以上	全市小・中学校で延べ206回実施した。各学校の活動毎のねらいの達成度評価の結果は「大変良い」70.4%、「良い」29.1%で、両者合わせた肯定的評価は99.5%であった。	○	児童生徒が料理する大変さを実感したり自分で作ったものを食べる喜びを感じることができた。保護者からも協力を得られた。特に中学校では、学校で弁当作りの指導時間を確保することが難しく、時間の確保を工夫することが課題である。



平成25年度実施状況・評価・反省

基本的施策2 地域の農業や食文化を理解し、感謝の心を育む

【全年代】

事業名	担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
<p>関係組織や団体と連携した活動</p>	<p>健康づくり課</p>	<p>【三条まんま塾と連携した活動】                      (1)じゃがいも収穫体験                      対象:市民                      内容:田の草取り、じゃがいもの収穫、昼食会                      実施日:6/16                      その他:栄然酒会と共催                      (2)五十嵐川秋の味覚体験                      対象:市民                      内容:鮭のつかみどり、試食 他                      実施日:10月下旬から11月上旬                      その他:五十嵐川漁業協同組合と共催                      (3)プチ畑プロジェクト                      内容:                      ・市民に枝豆の苗をプレゼントし、家庭で育ててもらう。                      ・市内の病医院や駅にプランターを設置し、市民に生育の様子を観察してもらう。                      実施期間:6月～8月</p>	<p>【三条まんま塾と連携した活動】                      (1)総会・研修会                      ①食と農で元気アップ講演会(5/27)                      参加人数 140人                      基調講演「土からの食育」竹熊宜孝氏                      ②食と農で元気アップ講座①～川から学ぶ米の価値～(8/11)                      参加人数 50人                      五十嵐川頭首工等の見学、朝食会 他                      (2)収穫体験                      ①じゃがいも収穫体験(6/16)                      参加人数 45人                      田の草取り、じゃがいも収穫、昼食会                      栄然酒会と共催                      ②五十嵐川秋の味覚体験                      五十嵐川漁業協同組合のサケ祭りと連携する計画であったが、サケ祭りの中止にともない中止                      (3)地産地消推進事業                      ①プチ畑プロジェクト(6月～12月)                      参加状況                      プランターの設置7施設(医院、駅 等)                      苗のプレゼント 71人、17施設(保育所)                      すまいるランド試食会 親子20組                      写真コンテスト 17人(17作品)                      ②地産地消推進店認定事業(4月～3月)                      認定数 156店                      マップ及び紹介冊子作成 12月発行                      ③旬の食材PRリレー(4月～)                      PRボードの作成 全推進店に配布                      ④地産地消フェア(10/14)                      参加状況                      出店 地産地消推進店14店                      スタッフ 58人(まんま塾会員、チーム食育、食推、栄養士会 他)                      販売状況                      お通し 数店売り切れ                      給食 459食</p>	<p>○</p>	<p>(1)(2)食や農に関わる様々な視点を取り入れ、各専門家と連携し実施することができた。参加者数は定員に対し、8割程度であった。早めの周知活動等工夫していきたい。                      (3) プチ畑プロジェクトにおいて、家庭で栽培した市民へのアンケートから、「農業や農産物を身近に感じるようになった」「食べ物への愛着がわいた」と答えた人が100%であり、農業への関心を高めることができたと考えられる。体験の重要性を再認識し、今後は農業現場での体験等も取り入れていきたい。</p>

平成25年度実施状況・評価・反省

基本的施策3 地元食材の積極的活用

【幼児期】

事業名	担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
地産地消給食の実施	健康づくり課	対象:保育所児童 内容:地元農産物を積極的に取り入れた献立の実施	毎月、旬の農産物34品目を積極的に取り入れた献立を実施	○	天候不順により、急に使用時期が変更になることがある。できるだけ地元農産物を取り入れるよう、献立を見直し、保育所に周知する。

【学齢期】

事業名	担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
地産地消給食の実施	健康づくり課	対象:小中学校児童生徒 内容:地元農産物を積極的に取り入れた献立の実施	毎月、旬の農産物34品目を積極的に取り入れた献立を実施	○	県、JA、調理場、生産者、八百屋と多くの機関が関わって実施しているため、それぞれの課題を整理し、システムそのものを見直していく必要がある。

平成25年度実施状況・評価・反省  
 基本的施策3 地元食材の積極的活用  
 【全年代】

事業名	担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
バイオマス資源の利活用の促進（食品残渣堆肥化）	環境課	<p>【食品残渣の堆肥化事業】  <b>対象:</b>市民  <b>内容:</b>食品残渣を堆肥化し地元農家や家庭菜園で活用し、出来た地元農作物を地元で消費するなど地域循環型社会を目指す。  <b>実施日:</b>年間  <b>目標:</b>完熟堆肥化センターに年226tの生ごみを搬入し、堆肥化する。（今年度より週1回三条地区の保育所の生ごみも搬入する。）</p>	完熟堆肥化センターで、262tの生ごみを受入れて資源化し、41tの堆肥が農家や市民に利用された。	△	目標の226tは上回ったものの、分別されず可燃ごみと一緒に焼却処分されている食品残渣等の生ごみが依然として多い状況にある。 平成26年度は完熟堆肥化センターへ生ごみを搬入する場合の手数料について、4月からの半年間試行的に無料とし、分別を促進し更なる資源化に取り組む。
地産地消店の推進事業	健康づくり課	<p><b>対象:</b>地場農産物等を積極的に取り扱う市内の小売店及び飲食店等  <b>内容:</b>認定基準に該当した地場農産物等の産地区分に応じて階級を付して、推進店として認定  <b>実施日:</b>随時  <b>目標値:</b>H25年度新規登録30店以上</p>	(農業活性化プランから再掲)		
関係組織や団体と連携した活動	健康づくり課	<p><b>対象:</b>三条まんま塾  <b>内容:</b>三条まんま塾等関係団体が実施する取り組みを支援し、三条産米や旬の地元野菜等の活用を推進していくほか、品質、鮮度の向上、健康の増進等、市民からより求められる農産物づくりなどを目的とし、農業者が団体と交流、連携を図る。  <b>実施日:</b>通年  <b>目標:</b>事業参加目標人数 900人</p>	(農業活性化プランから再掲)		

平成25年度実施状況・評価・反省  
 基本的施策4 食育の普及啓発  
 【幼児期】

事業名	担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
給食だより作成	健康づくり課	対象: 保育所児童及び保護者 内容: 家庭への食育情報提供 実施日: 毎月1回配布 目標: 第2次三条市食育推進計画の重点目標を含めた年間計画をたてて作成する。	毎月1回配布		H26も引き続き、地元農産物の情報及び旬の食材を使用した朝食簡単レシピを紹介する。

【学齢期】

事業名	担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
給食だよりの作成	健康づくり課	対象: 小中学校児童生徒及び保護者 内容: 家庭への食育情報提供 実施日: 毎月1回配布 目標: 第2次三条市食育推進計画の重点目標を含めた年間計画をたてて作成する。	毎月1回配布	○	H26も年間計画をたてて実施するとともに、旬の食材や学校食育推進事業を紹介していく。

【全年代】

事業名	担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
食育メール	健康づくり課	対象: 市民 内容: 三条市食育推進計画に沿った食育啓発資料を作成し、三条市ホームページ掲載及び病医院、銀行等へ印刷物の設置を行う。 実施日: 毎月19日発行 目標: メール配信の希望者を20人にする。	毎月1回配布 メール配信の希望者14人に送付	△	昨年に比べ希望者がやや増えたものの、目標の20人に達しなかった。引き続き、広報活動を行い、希望者を増やしていく。
HP, 広報などを利用した啓発活動	健康づくり課	対象: 市民 内容: HPや広報を効果的に活用するとともに、三条市の食育推進事業を紹介するパンフレットを作成する。 目標: パンフレットを作成し、しみん食育と農業のつどいで配布する。	広報さんじょう、ホームページに旬の食材紹介 毎月1回掲載 啓発パンフレット「和食いいね」 2,500部作成	△	パンフレットを作成したが、3月に作成したため、12月のしみん食育と農業のつどいでは配布できなかった。作成後は、あらゆる場面で市民に配布し、食育の啓発につなげている。今後も活用していきたい。

平成25年度事業計画

基本的施策4 食育の普及啓発

【全年代】

事業名	担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
市民給食試食会	健康づくり課	(1)子育て応援 給食試食会 対象:未就学児の保護者 内容:地産地消給食の試食 実施日:7月頃 (2)市民給食試食会 対象:市民 内容:地産地消給食の試食 実施日:11月頃 ※目 標:定員を90%満たす	(1)子育て応援給食試食会 実施日:7/3 参加者:27組 (2)工場の祭典における裏館調理場見学及び試食会 実施日:10/5 参加者:58人 (3)和食お祝い月間 市民給食試食会 実施日:12/25 参加者:73人	△	子育て応援試食会は定員の77%、工場の祭典では定員の58%であり、目標を達成できなかった。計画になかったが実施した和食お祝い月間の試食会は定員を超える参加があった。開催時期等の見直しが必要
しみん食育と農業のつどい	健康づくり課	対 象:市民 内 容:食に関する講演会 実施日:12月頃 目 標:アンケートで「大変良かった・良かった」の回答が75%以上	開催日:12/1(日) 会 場:三条体育文化センター 内 容:講演「いのち輝く元気野菜のひみつ」 講師 吉田俊道さん 参加者:200人 参加者アンケートから「大変良かった」が72%、「良かった」が16%で合わせて88%であった。	○	わかりやすいテーマで、子育て世代の参加も多く、アンケートでも目標を達成することができた。さらに多くの方に参加してもらえるよう、周知方法等工夫していきたい。